

平成 26 年度「授業評価・授業研究報告」

学校教育講座 梶原郁郎

(1) 授業の目的

教育学基礎演習 (一年次後期: 受講学生数 14 名) は学校教育講座の教員二名で担当して、前半・後半というかたちで授業を担当した。この報告書は梶原担当の後半に関するものである。まずこの授業の目的を、愛媛大学教育学部「教職課程のディプロマ・ポリシー」との関係において明示しておきたい。

- (1) 教科・教職に関する幅広い基礎的知識と、得意分野の専門的知識を有している。
- (2) 学校現場で生じている問題を始めとして地域や社会全体に関わる課題について、適切な対応を考え議論することができる。
- (3) 児童・生徒の発達に応じた授業の構成や教材・教具の工夫ができる。
- (4) 実践から学び、自己の学習課題を明確にして、理論と実践を結びつけた学習ができる。
- (5) 教育的愛情を持って児童・生徒に接することができるとともに、多世代にわたる対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。

新学習指導要領で知識の活用が謳われているが、教科の知識の活用は教師・学習者双方において容易なことではない。学習者が知識を活用できるように保障するためには、教師が知識を活用できていることが前提となる。この課題を前に私が本授業の教育内容・方法として次の点を意識した。知識の暗記に忙殺されてきた学生は、知識の活用とはどういうことかが分からないのではないかという点を踏まえて、学生に学校時代の学びの姿 (暗記主義の学習) を振り返らせ、何よりもまず、知識の活用を経験させる。この点を授業の目的とすることで、上述の DP の (1) の「教科・教職に関する幅広い基礎的知識」を具体的に保障しようと意図した。この DP (1) に加えて本授業では DP (3) についても取り組んだが、この点については以下に詳述する。

(2) 授業の内容・工夫

この授業では、学生が知識の活用を経験するために、小学三年生算数の 0 の段のかけ算を取り上げて、授業づくりの基礎について講義した。それを事例として取り上げたのは、本学学生の約 50%ほどが 0 の段のかけ算を理解できていない調査結果を踏まえてのことである。「 0×2 」の事例を提示できない学生の現状を前に、その理解を保障するために、次のように授業を行った。(I) 次の問題を出題して、学生に考えさせ、学生が暗記主義から脱却できるように配慮した。

[問] $2 \times 2 = 4$ 、この具体的事例を挙げよ。

[問] $0 \times 2 = 0$ 、この具体的事例を挙げよ。

[問] $2 \times 0 = 0$ 、この具体的事例を挙げよ。

その最初の問については、「 $2 + 2 = 4$ 、との違いが分かるように」と加えて出題した。これによって学生が、「実はかけ算を教えることは難しい」、「このままでは私はかけ算を教えることはできない」ことを認識できるように配慮した。「 0×2 」の事例として「 2×0 」の事例を出す学生もあり、このこと自体を問として学生に投げかけるかたちで授業を行った。

(II) 「 0×2 」の事例を児童が出すことができることを目的として構想した授業の実践映像を見せる。「 $0 \times 2 = 0$ 」の具体的事例をひとつも持たない場合には、その知識を活用して他の事例を提示することはできないということである。この現状が、映像による授業観察を通せばより改善されることを意図して、今回は映像を用いて講義を行った。

(3) 授業時間外学習の促進

上の (I) (II) に続く (III) として、「 0×2 」の事例をその場で考えさせてすぐに一例を提示するという方法ではなく、次回までにまずは自分の頭で考えてくるように、その後文献を調べて学んでくるように、授業時

間外学習を促進した。文献による学習は2名の学生のみが行うに留まり、その促進方法については再検討する課題が残された。

(4) 授業の成果—アンケート調査結果—

教育学基礎演習の最後の授業を終えて、本授業の成果を確認するために、アンケートを実施した(11名)。上述の0の段の事例を学生が提示できないということは、だからこそそうした教科の知識の保障において教師が必要であることを認識させる。授業を通して学生が、アンケートにおいては全員、0×2の自らの事例を提示できるようになった。この知識理解を踏まえて、授業では「0×2、2×0、0×0の違いが分かるように、どのような例題でどのように事例に教えるか」という課題などを考えさせ、私のその教育内容・方法についても、実際の授業実践の映像を通して講義した。こうした一連の授業を踏まえて、アンケートでは、次の点を尋ねた。

- (1) 教科の知識は大人でも容易には理解できないということは理解できましたか。
 - ①よく理解できた
 - ②理解できた
 - ③あまり理解できなかった
 - ④理解できなかった
- (2) 教科の知識の教育内容・方法(0の段のかけ算)を提示しました。それは理解できましたか。
 - ①よく理解できた
 - ②理解できた
 - ③あまり理解できなかった
 - ④理解できなかった
- (3) あなたのその理解において、実際の授業の映像は、役立ちましたか。
 - ①よく役だった
 - ②役だった
 - ③あまり役立たなかった
 - ④ほとんど役立たなかった
- (4) [教師が算数の知識を理解しているかどうか—児童に知識理解を保障できるか]、この両者の関係については実感できましたか。
 - ①よく実感できた
 - ②実感できた
 - ③あまり実感できなかった
 - ④実感できなかった
- (5) この授業は、あなたが受けてきた授業を反省的に振り返る鏡とはなりませんでしたか。
 - ①とても鏡となった
 - ②鏡となった
 - ③あまり鏡にならなかった
 - ④ほとんど鏡にならなかった

- (6) “教科の知識を教える”ということについて、この授業を通してどのように思いましたか。

以上(1)から(5)のアンケート結果は次の通りである。この表では各質問の回答番号①②③④ごとに、その人数を示している。

(1)	①	10	②	1	③	0	④	0
(2)	①	4	②	7	③	0	④	0
(3)	①	5	②	5	③	1	④	0
(4)	①	7	②	4	③	0	④	0
(5)	①	3	②	5	③	3	④	0

次の(6)をいくつか挙げておきたい。

- ・小学校の内容は中高と比較して難易度が低く教えやすいと昔は思っていたが、自分自身が本質まで深く分かっていないと、教えることは難しいのだと感じた。
- ・今までは「できる」だけで許されていたが、教師になるには、「仕組みまで理解する」ということが求められるのだと思った。そのことを追求しはじめたら、教採までには終わらないのではと思ってしまった。
- ・私は今までは教科の知識を教えるということは、ただ教科書の内容を教えるだけだと考えていた。だが、授業を通して考え方が変わり、知識のことをしっかり自分自身が理解していなければならぬのだと感じた。
- ・自分が深く知識を知っておかないと、うまく教えることはできない。これからは自身が学びを深める必要があると思った。授業をつくるにあたり、多くの時間を要していたことも知り、ひとつの授業をするには、たくさんの労力が必要なことも分かりました。0の段を深く考えたことがなかったので、この授業で考えることができてよかった。

以上の調査結果は、算数の知識理解、その難しさ、教師の授業内容研究の難しさが伝わっており、一定の成果と見ることができる。

(5) 今後の課題

以上の成果を、大人数の講義でも得ることができるようにすることを今後の課題としておきたい。0の段のかけ算以外の教科内容事例の構想・実践は、学生の教育実践に資するための基礎的作業として認識しておきたい。